国立科学博物館
National Museum of Nature and Science

プレスリリース

平成 23 年 4 月 26 日
独立行政法人国立科学博物館

「クレマチス園特別公開」について

独立行政法人国立科学博物館筑波実験植物園（園長：岩科　司）では、来る 5 月 3 日（火）から 6 月 12 日（日）まで、クレマチス園を公開いたします。

クレマチスとは、キンポウゲ科センニンソウ属（*Clematis*）に分類される植物の総称で、日本ではカザグルマ、クサボタン、ハンショウヅルなど 31 種（変種を含む）が生育します。日本のカザグルマ、中国原産とされるテッセンなど、世界各地の野生種をもとに多彩な園芸品種が作出されてきました。

当園のクレマチス園には、カザグルマをはじめとするクレマチスの野生種とその園芸品種、約 230 系統約 1200 株が植栽されています。見ごろを迎える５月３日～６月１２日は「クレマチス園特別公開」として、パネル展示、写真展、関連セミナーを開催します。展示では、クレマチスとは、その特徴、園芸品種の解説パネル、そして色とりどりのクレマチスの色の秘密にもせまります。

クレマチス園は昨年度リニューアルし、美しくなりました。日本では有数の観賞展示会場であり、今年も元気に株が育ちつつあります。自然と人が作り出した、紫、白、赤、色とりどりのクレマチスを是非ご覧ください。

本件についての問合せ
独立行政法人 国立科学博物館
筑波地区事務部　総務担当：中嶋　まさ枝
担当研究員：堤　千絵（植物研究部多様性解析保全グループ）
〒305-0005　茨城県つくば市天久保 4-1-1
TEL:029-851-5159　FAX:029-853-8998
E-mail: mnakajim@kahaku.go.jp
国立科学博物館ＨＰ　http://www.kahaku.go.jp/
国立科学博物館筑波実験植物園ＨＰ　http://www.tbg.kahaku.go.jp/

クレマチス園特別公開概要

１．名　　称　　クレマチス園特別公開

２．主　　催　　国立科学博物館筑波実験植物園

３．協　　力　　日本クレマチス協会

４．場　　所　　国立科学博物館 筑波実験植物園
茨城県つくば市天久保 4-1-1　　電話 029-851-5159

５．会　　期　　平成 23 年 5 月 3 日（火・祝）～6 月 12 日（日）

６．開園時間　　9：00～16：30（入園は 16：00）

７．休 園 日　　5 月 9 日（月）、5 月 16 日（月）、5 月 23 日（月）、5 月 30 日（月）、
6 月 6 日（月）

８．展示の構成　　クレマチス園での野生種とその園芸品種の植栽展示が一番の目玉です。クレマチス園ではカザグルマなどの野生種の他、園芸品種の作出にかかわったと推定される原種ごとに、パテンス（カザグルマ）系、八重咲き品種とフロリダ（テッセン）系、アトラゲネ系、テキセンシス系、インテグリフォリア系、ウイティケラ系、ジャックマニー系、ラヌギノーサ系、モンタナ系、クサボタン系（ヘラクレイフォリア系）、などに分かれています。その他、解説パネル展示、写真展、関連セミナーを開催します。

９．関連事業　　①展示案内
場所：クレマチス園展示会場
5 月 3 日（火・祝）10:30～11:30,13:30～14:30
講師：筑波実験植物園名誉研究員　松本　定

②セミナー
場所：研修展示館３Ｆ
5 月 4 日（水・祝）13:30～15:00
「クレマチスの花の色」
講師：筑波実験植物園長　岩科　司

③セミナー
場所：研修展示館３Ｆ
5 月 22 日（日）13:00～14:20
クレマチス属の自然史「種と遺伝子の多様性」
講師：東京都立神代高等学校教諭　三池田　修

同日（日）14:30～15:50

絶滅危惧種カザグルマの変異と保全

講師：東京大学大学院保全生態学研究室　飯島　眞

④会期中，クレマチスの苗や鉢物，季節の植物の販売を行ないます。

場所：教育棟

10．入園料　一般・大学生　300円、高校生以下及び65歳以上無料
団体20名以上200円
※5/4（水・祝）、5/18（水）は入園無料

11．交通案内　≪車≫　常磐自動車道　桜土浦I.C.から北（筑波山方面）へ約８㎞
≪電車・バス≫　つくばエクスプレス終点「つくば駅」下車。
「つくばセンター」より関東鉄道バス　テクノパーク大穂行き「筑波実験植物園」下車徒歩２分、または筑波大学循環（左回り）「天久保二丁目」下車、徒歩８分

「クレマチス」

クレマチスはキンポウゲ科、センニンソウ属（*Clematis*）をさし、つる性ないしは株立性の植物群です。温帯地域を中心に約 300 種が、日本ではカザグルマ、ハンショウヅル、センニンソウなど 23 種 7 変種 1 雑種が知られています。19 世紀の初めにシーボルトらにより日本産のカザグルマ（早咲～中間咲）、中国原産のラヌギノーサやテッセン（以上中間咲）などがヨーロッパに渡りました。とくにカザグルマは１８５０年代のヨーロッパで多種類との交配親として重用され、今日のクレマチス発展に大きな役割を果たしました。交配親として世界中で親しまれ、茶花や伝統工芸品の描画題材にされてきたカザグルマですが、日本から朝鮮半島に限られて分布する絶滅の恐れのある種です。

当園は、野生種と代表的園芸品種約 1,200 株以上を保存し、特に大輪系園芸品種の改良に貢献した日本が誇るカザグルマとその園芸品種の系統保存に力を入れています。絶滅危惧種カザグルマの保全を中心に、中国のラヌギノーサ、地中海沿岸の野生種ウィティケラ、およびこれらを交配したジャックマニーの４系統をもとに、現在では、これらの系統別の整理は困難ですが、ここでは上記４系統のほかにそれらの八重咲き品種と中国のフロリダ（テッセン）系と、アメリカのテキセンシス系、中央アジアのインテグリフォリア系、アルピナ（アトラゲネ）系、モンタナ系、クサボタン系（ヘラクレイフォリア系）、およびその他にわけて展示解説しています。セミナーでは自然史として種の多様性と遺伝的多様性や絶滅危惧種カザグルマの自生地における変異や衰退の原因、保全のための取組、クレマチスの花色の仕組みについて紹介します。



クレマチス‘ニオベ’



クレマチス‘満州黄’



カザグルマ　群馬・長野原川原湯温泉産



カザグルマ　茨城・内原町東産